

# 演題名：HPH活動が職員の喫煙率や喫煙防止の意識の及ぼす効果

筆頭演者<sup>1)</sup>、共同研究者<sup>2) 3)</sup> 野口愛<sup>1)</sup>、福島 啓<sup>2)</sup>、今村 翔太郎<sup>3)</sup>

1) 所属事業所、2) 所属事業所、3) 所属事業所 1)2) 西淀病院地域総合内科医局医師、3) 医局事務課

## 1. 背景・目的

・当院はHPH(Health Promoting Hospitals and Health Services)に加盟しており、職員の健康増進の面でより進んだ禁煙の取り組みが求められている。当院職員の喫煙率は経年的に低下してきているが、2017年の喫煙率は15%であり、医療機関としては比較的高かった。

### 【目的】

・当院で禁煙のためのHPH活動を行うことで、職員の喫煙率が低下するあるいは喫煙防止の意識が改善するかどうかを調べることとした。

禁煙のためのHPH活動プログラム

| 内容                   | 対象    | 頻度   |
|----------------------|-------|------|
| スワンスワン (病院周辺の吸い殻ひろい) | 職員    | 月1回  |
| 禁煙教室                 | 患者・職員 | 月1回  |
| 禁煙学習会                | 職員    | 年1回  |
| 喫煙予防教室               | 小学生   | 年2回  |
| 入院患者への禁煙のお勧め         | 患者    | そのつど |
| 禁煙カードの配布             | 患者    | そのつど |
| 広報紙の発行               | 患者・職員 | 月1回  |

スワンスワン (病院周辺の吸い殻ひろい)



小学校での喫煙防止教室



禁煙カード



## 2. 研究方法

・介入前(2019年12月)と介入後(2021年4月)に当院の全職員を対象にして、喫煙の有無や加濃式社会的ニコチン依存度(KTSND)についてのアンケートを行った。

・2020年1月～2021年3月に全職員を対象に禁煙のためのHPH活動(病院周辺のタバコ拾い、患者向け禁煙教室、小中学校での喫煙防止教室、職員向け学習会、職員の禁煙支援)を行った。

加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (KTSND) <sup>1)</sup>

加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (KTSND)

- ① タバコを吸うこと自体が病気になる。
- ② 喫煙には文化がある。
- ③ タバコは嗜好品 (味や嗜癖を楽しむもの) である。
- ④ 喫煙する生活様式も尊重されてよい。
- ⑤ 喫煙によって人生が豊かになる人もいる。
- ⑥ タバコは効用 (からだや精神によい作用) がある。
- ⑦ タバコはストレスを解消する作用がある。
- ⑧ タバコは喫煙者の頭の働きを高める。
- ⑨ 医者もタバコの害を騒がすがる。
- ⑩ 灰皿の置かれている場所は、喫煙できる場所である。

## 3. 結果

・アンケートの回答が得られた全職員(452名、職員番号未記載による重複を含む)のうち、職員番号により前後の回答がそろっていることが確認できた182名を解析対象にした。

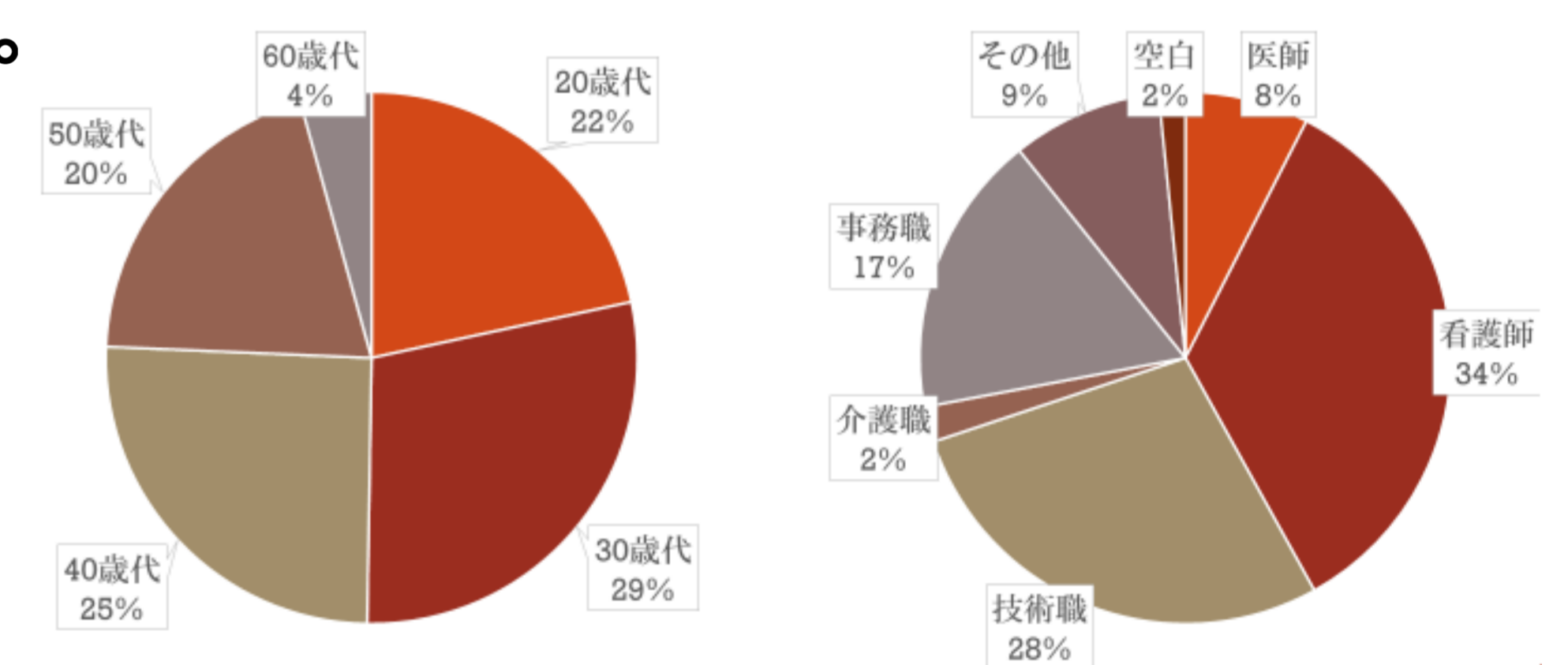
・対象者中の現喫煙者は18名(9.9%)で、期間中にそのうち5名が禁煙した。KTSNDのスコアの平均は介入前が11.1点、介入後が11.2点で変化が見られなかった。HPH活動への参加率は75%だった。回答が得られた全職員では介入前の喫煙率は11.9%、介入後の喫煙率は10.2%でわずかに低下した。

・対象者中の現喫煙者は9.7%で、期間中にそのうち5名が禁煙して喫煙率は7.0%に低下した。

・KTSNDスコアは介入前11.0±6.0点、介入後11.2±5.8点で変化なかった。

・75%の職員が何らかのHPH活動に参加していた。

対象者の年齢と職種



## 4. 考察

・当院職員の喫煙率が低下してきていることは確認できたが、非喫煙者も含めたKTSNDスコアは介入前後で変化が見られなかった。十分な効果を上げられなかった要因として、介入開始直後からコロナ禍に入り小中学校での喫煙防止教室がほとんど中止になるなど十分な介入を行えなかったことがあげられる。喫煙していた職員の一部が介入後に禁煙していたが、新たに入職した職員にも喫煙者がいたため、職員全体の喫煙率に大きな変化はなかった。

・職員の禁煙がHPH活動の効果であるかどうかは不明で、対照群との比較が必要である。

・KTSNDスコアは、過去の医療従事者を対象にした研究と大きな差はなかった<sup>1) 2)</sup>。

・介入前後で変化がなかったが、コロナ禍のため予定していたHPH活動が十分に行えなかったことが影響したと思われる。

## 5. 結論

・当院職員の喫煙率は低下してきているが、非喫煙者も含めたKTSNDスコアは禁煙のためのHPH活動を行う前後で変化が見られなかった。

・この研究はJ-HPH加盟医療機関に共同研究参加を呼びかけ、介入群は当院とさらに3事業所(岐阜民医連、巨摩共立病院、川久保病院)が、対照群は9事業所(くわみず病院、高松平和病院、尼崎医療生協病院、耳原総合病院、利根中央病院、健和会病院、健生病院、千鳥橋病院、西島診療所)が参加した。介入群はどの事業所もコロナ禍においてこれまでにないような活動ができなかったこともあり、現段階ではすべての集計結果が出ておらず、今回は当院の結果のみ発表し、全体の結果はあらためて発表する予定である。

### 参考文献

- 1) 肺癌 2010; 50:272-279.
- 2) 日歯周誌 2008; 50: 185-192.

### 日本HPHネットワーク 利益相反(COI)の開示

筆頭演者名: 野口愛  
共同演者名: 福島啓 今村翔太郎

筆頭演者ならびに共同演者に開示すべきCOIはありません。